

お待たせしました！ 10月14日再開館！

埼玉県立歴史と民俗の博物館 副館長 岡本健一

当館は、昨年の12月5日から施設改修工事のため、長らく休館をしていましたが、工事でも無事終了し、いよいよ10月14日（土）に再開館いたします。友の会のみなさまには、大変ご不便をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

さて、まずは今回の施設改修工事、正確には県教育局の「社会教育施設建物いきいき回復事業」の一環として実施したもので、文字通り老朽化した建物の改修が主な目的となります。では博物館の何が変わったのでしょうか。

1つには、開館以来50年以上経過し、空調設備も老朽化していたため、新たな機械の入れ替えを行いました。当然燃費効率もよくなり、環境にもやさしくなっています。次に、展示室の内装の改修です。中でも特別展示室、季節展示室、常設展第3室を大きく改修し、床面の張替えや固定展示ケースの改修、照明のLED化等を行っています。あわせて移動の展示ケースのLED化も行っているため、展示室の雰囲気が工事前と異なっていると思います。

また、これまで収蔵庫が火災となった場合には、二酸化炭素の放出による消火方法がとられていましたが、人体にも危険が大きいということで、ハロンガスによる消火方法に変更しています。その他、屋上の防水改修や搬入口の改修など、さまざまな工事を行いました。

このように、一目見て劇的に変化はしていませんが、展示をご覧いただく方々にとっても、収蔵されている資料にとっても、快適な環境を提供することができるようになりました。

さらに、工事にあわせて常設展第10室（民俗展示室）は、これまでの「水とくらし」から「火とくらし」というテーマで全面展示替えを行いました。また第1、2室（考古展示室）についても、一部で展示替えを行っています。

職員は、工事休館中、当館で展示や体験学習ができない状況で、普段とは異なる慣れない業務に奔走してきました。通常資料保存業務や今後の展示準備に加え、工事の立会、深谷での出張展示、各県立の博物館施設を借りての出張体験事業、学校への出前授業、動画やブログ・SNSの積極的な配信、キャラクターやグッズの開発、学芸員総出演の講演会、博物館紹介のパネル展、展示ディスプレイの徹底清掃などなど。新しい試みも目白押しで、職員にとって休館はしていても充実した（？）10か月でした。その成果の一端はホームページでご覧いただけます。

なお、再開館を記念して、オープニングイベントを企画しています。10月14日（土）には、国指定重要無形民俗文化財の「玉敷神社神楽」を、また15日（日）には、埼玉大学邦楽部琴吹会による、和楽器アンサンブルの公演を行います。また、博物館裏方探検隊スペシャルやリニューアルになった展示室の解説も実施します。新しくなった博物館のご観覧と合わせて、是非ご参加ください。

「新生れきみん埼玉」を今後ともよろしく願いいたします。

◆会からのお知らせ◆

これまでお送りしていましたEメール形式でのお知らせは今後も必要に応じて全ての会員にお送りします。この会からのEメールに対しては直接の返信はとどきません。記載してある<連絡フォーム>でご連絡ください。

●運営体制について

現在、友の会の会長が空席になっていますが、今年度(来年3月まで)についてはこれまでの役員体制を維持し、事業活動については一部の予定変更を除いて概ね設定方針どおりの運営を行うことにいたします。

●会報『JUNO』の発行について

会報は今号のあと、2023年12月と2024年2月も同様に発行します。2023年12月号には、次年度の友の会会費(2000円)の振込書を同封し、2024年2月号には会費納付済みの会員への新規会員証を同封いたします。2024年4月以降は、Web会報とし、ここ数カ月続けてきたEメール方式によるデジタル会報に移行します(一部の会員に現在の郵送も継続します)。発送費用の削減と申込受付の簡素化をはかるためですので、ご了解ください。

●事業について

講演会、見学会、クラブ活動などの諸事業につきましては、従来と同様に会報に情報を掲載して案内し、ホームページには申込フォームを設定します。企画は、詳細が決まり次第通知いたします。

●企画部会について

8月の「JUNO通信」でお知らせした企画部会ですが、その後会員への呼びかけを行い、参加者はML(メーリングリスト)というグループに参加してもらい、情報の共有を行うことになっています。現在64名の方に参加・登録していただいております。9月25日に第1回の集まりを行うことができました。この詳細は企画部会参加の皆様などにML(メーリングリスト)により近く連絡いたします。会報にも随時情報を掲載します。

●今後の予定●

- ・2023(令和5)-10-11(水) 古文書学習会 市民会館おおみや
- ・2023(令和5)-11-08(水) 古文書学習会 市民会館おおみや
- ・2023(令和5)-11-09(木) バス見学会『いばらき古墳巡り』
- ・2023(令和5)-11-17(金) まち歩きクラブ(城南五山と自然教育園)
- ・2023(令和5)-11-18(土) 古代文化を考える会
- ・2023(令和5)-11-25(土) 古道探索倶楽部(中山道を行く第4回)
- ・2023(令和5)-11-29(水) プレミアム講座「埼玉の隠れた偉人 清水卯三郎」

◆イベント案内◆(規定にしたがってご応募ください)

【区分】	■ 古代文化を考える会(第12回) ■
【テーマ】	天武王権とその業績
【概要】	<p>前回の講演会で、今回は「高市天皇と長屋親王」を取り上げる旨お伝えいたしました。当テーマを先に行うことになりました。「壬申の乱」は天武天皇が日本列島を統一するために「天智王権」を伐った覇権争いの戦いで、635年に「天武天皇の父」が樹立した「天武王権」は40年後に天下を統一した。この「壬申の乱」の結果、中央豪族の官僚化や地方支配体制が進展し、中央集権国家の成立に至った。天皇という称号や律令という法体系が成立するなど日本国家の基礎作りが進展した画期的時代であった。この時代の業績の一部を記せば以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">・国書の編纂 一『古事記』、『日本紀』一・「八色の姓」(天皇を中心とする姓の新秩序)の制定、飛鳥浄御原令の編纂、戸籍の作成・防衛施設の築造、唐の都を参考にした新しい都「藤原京」の建設、唐の「開元通宝」を手本とした最初の貨幣「富本銭」の铸造、神道及び仏教の保護 <p>『古事記』は「壬申の乱」で手にした皇位継承の正当性を主張しようとするものである。また720年に成立しているのは『日本紀』である。天武天皇の企画による「天武王権」の歴史書である。ところが『日本書紀』には「高市天皇紀」はなく天武天皇の次は天智天皇の娘の「持統紀」になっている。『日本紀』「高市天皇紀」は『日本書紀』では「持統記」にすり替わっている。『日本書紀』は高市天皇を高市皇子にし、「天武天皇の父」は斉明天皇にすり替え、天武天皇を天智天皇の弟にして「天武王権」の業績を「天智王権」の業績にすり替えた。『日本書紀』の成立は775年~791年頃のことであるという。『日本紀』を廃して『日本書紀』を作ることを考えたのは光仁天皇であろう。「日本の歴史」は『日本書紀』によって大きく曲げられている。先生は著書で「天武王権」の記述に多くのページを割いている。どんなお話しが聞けるのだろうか。</p>
【日時】	2023年(令和5年)11月18日(土) 13時~16時
【場所】	埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂〔東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅〕
【講師】	佃 收 先生

【費用】	参加費 500円、本代(早わかり「日本通史」)1,000円
【申込】	A ホームページの[申込フォーム]より申込 B ハガキによる場合 会員番号・氏名・住所・電話番号・「古代文化を考える会」の講演会参加を明記し、「〒338-0811 さいたま市桜区白鍬776-5 斉藤亨 (048-853-6728)」宛お申し込みください。【締切期日：11月12日】

【区分】	■ 古道探索倶楽部 ■
概要>	第39回古道を訪ねて 中山道に行く(第4回)
【日時】	令和5年(2023年)11月25日(土) 集合9時30分～解散15時頃
【集合】	JR高崎線 宮原駅改札口周辺 9時30分
【行程】	宮原駅—加茂神社—南方神社—愛宕神社—氷川鍬神社—上尾宿本陣跡—上尾駅—遍照院—地藏堂—旧跡木戸址—武村旅館—浄念寺—桶川駅
【その他】	歩行距離は約9km、史跡巡りを入れると10km少々です。弁当と飲み物は必ず事前にご用意願います。雨具もお忘れなく。
【費用】	資料代等・参加費500円
【申込】	A ホームページの[申込フォーム]より申込 B 11月17日までに、普通葉書に氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して〒330-0073 さいたま市浦和区元町3-32-25-202 寺内慎一宛
【問合せ】	前日まで寺内 090-1545-2848 当日小俣(おまた) 090-3436-9017

【区分】	■ まち歩きクラブ ■
【内容】	城南五山と自然教育園
【概要】	城南五山とは、品川区や港区など東京の城南地区にある高台の総称で、JR目黒駅からJR品川駅にかけての地域です。池田山、御殿山、島津山、花房山、八つ山の5ヶ所で、江戸時代からそれぞれ由緒ある大名屋敷や大名出身者の邸宅があったことが命名の由来です。古くから高級住宅街として知られ、現在でも城南五山はブランドエリアとなっています。それぞれの地域にはかつての庭園が公園として残っているものもあり、引き継がれた建物や地名だけを残すものもあります。またこの地の中央を通る旧道は旧東海道で、その名残の遺構を見ることができます。自然教育園は正式には国立科学博物館附属自然教育園で、中世の豪族の館からの歴史的経緯により、まれに見る豊かな自然が残されました。
【行程】	J R品川駅(中央改札前に午前10時集合)→八ツ山橋→御殿山→二本榎通(古東海道筋)→島津山(清泉女子大学)→高野山東京別院(休憩)→緑地公園で昼食→高輪消防署二本榎出張所・黄梅院・承教寺・赤穂浪士忠烈の跡→覚林寺(清正公)→ゆかしの杜(港区立郷土歴史館＝カフェで自由休憩)→池田山公園→花房山通り→自然教育園(65歳以上無料＝要身分証)→目黒駅(解散)
【その他】	ゆるい坂のある道を合計3～4時間ほど歩きます。食事は各自ご用意ください。
【日時】	2023年(令和5年)11月17日(金) 10時～15時頃
【集合】	J R京浜東北線・山の手線 品川駅中央改札前 午前10時
【費用】	交通費は各自負担。保険と参加費用：300円
【申込】	ホームページの [申込フォーム] より申込
【問合せ】	090-1990-4807 つくい

【区分】	■ 古文書学習会 ■
【概要】	●古文書に興味ある皆さんへ 一宮の氷川神社元神主岩井家文書『岩井家旧記大集』解説(毎月第2木曜日を予定しておりますが、会場の都合で変更することがあります)
【詳細】	13回 10月11日(水) 午後1時30分～ 市民会館おおみや6F集会室9 会場費300円 14回 11月8日(水) 午後1時30分～ 高鼻コミュニティセンター(大宮氷川神社東側、蕎麦屋大村庵北隣) 第5会議室 会場費300円 連絡欄に「第〇回参加」と書いてください。 (郵便の場合) ハガキに友の会会員番号・氏名・メールアドレス・住所・電話番号・第〇回学習会参加と明記し、 〒337-0042 さいたま市見沼区南中野1183-10 斉藤文孝宛

バス見学会



いばらき古墳巡り

特別公開 装飾壁画古墳 虎塚古墳 及び 十五郎穴

横穴墓群・茨城の古墳時代の幕あけ 磯浜古墳群

茨城県ひたちなか市・大洗町・水戸市の国指定史跡の古墳群等を大型バスで巡る見学会

- ・虎塚古墳は7世紀前半築造の前方後円墳。装飾壁画のある石室内を秋の限定公開に合わせて観賞します。隣接の埋蔵文化財調査センターではレプリカほか出土遺物を見学します。
- ・十五郎穴横穴墓群は虎塚古墳のある台地崖面に7世紀～9世紀前半造営された横穴墓群。
- ・磯浜古墳群：車塚古墳(円墳 4世紀後半)、日下ヶ塚(常陸鏡塚)古墳(前方後円墳 4世紀後半)、姫塚古墳(前方後方墳 3世紀後半)、日下ヶ塚古墳一体は高台にあることから江戸時代後期、水戸藩の磯浜海防陣屋として利用された。現地で大洗町教育委員会文化財担当職員から解説を受けます。
- ・水戸市埋蔵文化財センター及び大串貝塚ふれあい公園：大串貝塚は『常陸国風土記』に載る文献に記された貝塚として世界で最も古い。公園内に高さ15m超の「ダイダラボウ像」が建っています。埋蔵文化財センター館内で出土した貝類等を見学できます。
- ・昼食は、那珂湊で新鮮な海鮮丼を賞味します。おさかな市場で買物もできます。

日 時：令和5年(2023年)11月9日(木) 雨天実施

出 発：午前8時00分(時間厳守・発車時間です)

集合場所：大宮駅西口・ソニックビル西側道路(友の会旗を掲げています)

参加費：8,000円(当日集金)

《参加のお申込は～》

- ・会員様限定ですが、ご家族・ご友人は参加できます。
- ・定員：45名(先着順・定員に達した場合お断りする場合があります)
- ・締切り：10月29日(日)
- ・申込方法(AかBのどちらか)

A・友の会ホームページ・申込フォームから(連絡できるメールアドレス・電話記入必須)

B・往復はがきに、会員番号・氏名・住所・当日連絡できる電話番号・イベント名を明記。
同伴者がいる場合は氏名。

[宛先] 〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町4-993-6-202 山本洋正 宛

※集合場所がわからない場合、「集合場所地図希望」と申込時に付記してください。

行程概略

ソニック発—高速道路—虎塚古墳他—昼食(地魚安處宴 久楽)・買物(那珂湊魚市場)—磯浜古墳群—水戸市埋蔵文化財センター(大串貝塚)—高速道路—ソニック着(18:15頃見込み)

※急勾配の坂を歩行する箇所もありますので、必ず歩きやすい服装・靴でお出かけ下さい。

埼玉の隠れた偉人 清水 卯三郎

埼玉の三偉人として有名な塙保己一、渋沢栄一、荻野吟子ほどには広く知られていませんが、幕末・維新の時代に活躍した埼玉出身の国際人、清水卯三郎を取り上げます。

羽生出身の清水卯三郎は若くして江戸に出て商人として働く一方、語学や洋学を学び新時代の中で次々に活躍の場を広げていきます。通訳やパリ万博での外交面での活躍の他に欧州の学問・工芸を学んで近代日本の開化に貢献しました。

講師の木村さんのご専門は日本近現代史。文書館に在勤中は清水家文書を含む古文書を扱われて歴史を深掘りされてきました。現在は企画担当として当会と館をつなぐ立場で当会の活動にもご協力をいただいています。

(※ 休館中の令和5年度出張講座(5/27)に実施した講座の増補版です)

講師 **木村 遼之 氏** 当館学芸員

日時 令和5年(2023年)11月29日(水) 13時30分～14時30分
(開場：13時)

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

申込方法 (下記①または②でお願いします)

① 友の会ホームページの「申込フォーム」からご応募ください

(申込情報の表示リストからご自分の登録番号をご確認ください)

② 往復はがきに 会員番号・氏名・住所・電話番号・イベント名を明記、返信面にも住所・氏名を記入し、「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。当日は返信ハガキをお持ちください

締切 令和5年(2023年)11月20日(月)必着

定員は従来の150名に戻していますが、応募が定員を超えた場合は締め切り前でも募集を中止する場合があります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会